

## 令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	48	学校名	静岡県立藤枝北高等学校	校長名	貝瀬佳章
------	----	-----	-------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	学ぶ意欲を引き出し、基礎学力の定着とともに、思考力・判断力・表現力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業が分かる と答える生徒の割合 85%以上</li> <li>・授業で力がついたと答える生徒の割合 85%以上</li> <li>・週3日以上家庭学習すると答える生徒の割合 30%以上</li> <li>・週5日以上家庭学習すると答える生徒の割合 15%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業が分かる と答えた生徒の割合 86.4%、授業で力がついたと答えた生徒の割合 91.7%で目標を達成できた。</li> <li>・週3日以上家庭学習すると答えた生徒の割合 21.9%、5日以上家庭学習すると答える生徒の割合 3.4%は前年同様課題を残す結果となった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に関する目標値においてはいずれも達成できた。</li> <li>・全体的には授業に対する姿勢は良く、特に3年生は進路決定後も意欲的に学習に取り組む生徒が多かった。</li> <li>・生徒の実状に応じた家庭学習（課題や宿題）の在り方は今後検討する必要がある。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善を目的とした教員研修の回数 年2回以上</li> <li>・全教員が研究授業を参観する回数年1回以上</li> <li>・先生は「教え方」や「教材」に工夫をしていると答える生徒の割合 75%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は4回実施した。</li> <li>・9月16日～10月13日を「授業公開週間」と設定した。</li> <li>・先生は「教え方」や「教材」に工夫をしていると答えた生徒の割合 80.3%で目標を達成した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月は情報モラル、7月はコンプライアンス、8月は生成AI、10月にはGoogle Classroomの活用に関する研修を実施した。</li> <li>・「授業公開週間」を設定し、教員同士が自由に授業参観ができる環境を整えることができたので継続していきたい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の本の貸出冊数年間 1600冊以上</li> <li>・年間読書冊数5冊以上の生徒の割合 50%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の貸し出し冊数12月時点で1206冊。3月までの見込みは1400冊。</li> <li>年間読書冊数5冊以上 58.6%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間読書冊数5冊以上の生徒の割合は目標を達成できたが、貸出冊数は未達となった。</li> <li>・貸出冊数が増えるような図書館の利用法などを図書委員会で検討するといった取組が必要である。</li> </ul>

イ	<p>キャリア教育を充実させることにより、生徒一人一人が希望する進路の実現を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路希望達成率 100%</li> <li>・「藤北ドリカムノート」を活用し、自己の目標達成に向けて頑張っていると答える生徒の割合 60%以上</li> <li>・進路について考えていると答える生徒の割合 85%以上</li> <li>・「産業社会と人間」の時間が充実していると答える生徒の割合 70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路希望はおおむね 100%達成。</li> <li>・「藤北ドリカムノート」を活用し、自己の目標達成に向けて頑張ったと答えた生徒の割合 48.5%。</li> <li>・進路について考えていると答えた生徒の割合は 80.8%。</li> <li>・「産業社会と人間」の時間が充実していると答えた生徒の割合 83.3%で目標達成。</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職、進学ともに今年度は自分の目標を追及する者が多く、様々な分野への進路決定につながった。</li> <li>・ドリカムノートは担任との意思疎通等で有効活用している生徒がいる一方で、全体的には利用率の低下が見られるため、内容の見直しを含めた検討が必要である。</li> <li>・職業人インタビューなど校外の活動を通して進路意識を高めることができた。</li> </ul>
ウ	<p>基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図るとともに、心身の健康を維持・促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつがしっかりできていると答える生徒の割合 90%以上</li> <li>・服装や身だしなみがしっかりできていると答える生徒の割合 90%以上</li> <li>・学校生活が充実していると答える生徒の割合 85%以上</li> <li>・部活動が充実していると答える生徒の割合 70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつがしっかりできていると答えた生徒の割合 95.6%。</li> <li>・服装や身だしなみがしっかりできたと答えた生徒の割合 98.8%。</li> <li>・学校生活が充実していると答える生徒の割合 91.9%。</li> <li>・部活動が充実している答えた生徒の割合 80.5%。</li> <li>・全て目標を達成。</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度校則を改正し、細かな規制をなくしたが、服装等は大きく乱れることはなく、ほぼ全員の生徒(98.8%)がしっかりできたと回答したことからもうかがえる。この状態を維持し、意識高揚を図っていく。</li> <li>・生徒数や教員数の減少から食物部と手芸部を統合して生活科学部に、女子テニス部を廃部、軽音楽同好会を廃会とし、生徒規模に見合う統廃合を計画的に進めることができた。</li> </ul>
エ	<p>総合学科における魅力的な新しい実学教育を展開する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活が充実していると答える生徒の割合 85%以上</li> <li>・資格取得や検定合格等にむけて意欲的に取り組んでいると答える生徒の割合 60%以上</li> <li>・外部人材を活用した授業等の回数年 50 回以上</li> <li>・「総合的な探究の時間」が充実していると</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活が充実していると答える生徒の割合 91.9%。</li> <li>・資格取得や検定合格等にむけて意欲的に取り組んでいると答えた生徒の割合 65.2%で目標達成。</li> <li>・外部人材を活用した授業等は 25 回の実施。</li> <li>・「総合的な探究の時間」が充実していると</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得は商・工・農の教科内でも意欲的に実施され、英語や漢字の検定にも力を入れている。</li> <li>・外部人材活用授業等の回数は目標に至らなかった一方で、学校の実状に応じた適切な目標値の設定が必要である。</li> <li>・総合的な探究の時間については、生徒は充実感をもって取り組んでいると見て取れる</li> </ul>

様式第3号

		答える生徒の割合 60%以上	答えた生徒の割合 80.4%で目標達成。		が、次のステップに向けて検討委員会を設置し充実を図っていく。
オ	防災教育、安全教育、環境教育の充実を図る。	・地域又は総合防災訓練への生徒参加率 70%以上	・地域又は総合防災訓練への生徒参加率は 28.7%であった。	C	・地域の訓練が縮小傾向にあり、必然的に高校生の参加率は低下している。学校の呼びかけだけで参加率の増加を進めていくのは困難である。
		・自転車交通事故年15件以内 ・自転車安全カード取得枚数60枚以内	・自転車交通事故は20件であった。 ・自転車安全カード取得枚数89枚であった。	B	・前年比で事故は増加し、交通ルールを守っているというアンケートの回答に比べて違反カード取得者も多い。指導を強化しているが、成果に結びついていない現状にある。
		・掃除にきちんと取り組んでいると答える生徒の割合90%以上	・掃除にきちんと取り組んでいると答える生徒の割合99.5%で目標達成。	A	・生徒は清掃活動に積極的に取り組んでいることからこの状況を維持していきたい。
カ	広報活動の推進を図り、保護者・地域との連携を深める。	・ホームページ更新回数週3回以上	・ホームページ更新は週4回実施で目標達成。	A	・広報媒体としてInstagramを新規導入した。掲載に至る関係者の確認作業を効率的に行う仕組みが必要である。
		・一日体験入学参加・授業公開日におけるアンケートで「満足している」と回答する生徒・保護者の割合80%以上 ・PTA総会への保護者の出席率30%以上	・一日体験入学参加・授業公開日におけるアンケートで「満足している」と回答した中学生・保護者の割合99.4%。 ・PTA総会への保護者の出席率33.0%であった。	A	・中学生一日体験入学や授業公開の実施について高い評価を得たので今後さらに要望に応える内容を検討していく。 ・PTA総会は総会終了後、2、3年に分かれて説明会を実施するなど運営を工夫したことで目標値を達成することができたといえる。
キ	学校事務の適正な執行を図る。	・仕事の効率化と業務の見直しを図っていると答える事務職員の割合80%以上 ・心身の負担が軽減されたと答える事務職員の割合80%以上	・仕事効率化、心身の負担軽減ともに62.5%であった。	B	・比較的業務が落ち着いている時期に小さなことから見直し等を行った。
ク	教職員の多忙化解消を推進する。	・心身の負担が軽減されたと答える教職員の割合50%以上 ・教職員の夏季休暇取得率100%	・心身の負担が軽減されたと答える教職員の割合48.1%であった。 ・教職員の夏季休暇取得率100%を達成。	B	・心身の負担軽減は、目標値には近い値となったが、負担軽減を指標として評価するむずかしさもあるため指標を含めて検討する必要がある。 ・昨年に引き続き、夏季休暇取得率100%を達成した。 ・情報連絡ツールであるCラーニングを新たに導入し、さらに業務軽減を図る。